

## 園芸品目の日照不足対策(第1報)

### ■共通事項

#### 1 排水対策

- ・ほ場内の排水路の整備等により排水に努めると共に、浸水時は速やかに排水する。
- ・特に、施設栽培では施設周辺の排水路を整備し、雨水の侵入を防ぐ。

#### 2 病害虫対策

- ・灰色かび病等の発生を防ぐため、感染源となる罹病葉や株を早期に処分すると共に、薬剤防除により予防する。

### ■野菜

#### 1 共通事項

- ・草勢が衰弱した場合は、必要に応じて微量要素を含む葉面散布剤を散布する。

#### 2 施設野菜

- ・草勢が衰弱した場合は、早めの摘果(花)を行い、草勢の回復を図る(特に果菜類)。
- ・茎葉が過繁茂する場合は、茎葉の間引きを行い、受光環境を改善する。
- ・ハウス内の換気に努め、遮光資材の細めな開閉により葉や果実の焼け症を防止する。
- ・育苗中の苗鉢は、間隔を十分に確保し通気性を高める。
- ・セル育苗の場合は、かん水や追肥を控えめとし軟弱徒長防止に努める。なお、曇雨天が続いた後の晴天時は、かん水が遅れないようにする。

#### 3 露地野菜

- ・根の衰弱を防ぐため、降雨により固く締まった畝面の中耕を行う。

### ■果樹

#### 1 共通事項

- ・徒長枝の整理や枝の誘引により受光環境を改善し、結実不良や生理落果を防ぐ。

#### 2 ぶどう(ハウス栽培)

- ・棚面が混み合う場合は、枝抜き・枝切りを行い、木漏れ日の入る程度の明るさにする。
- ・果粒軟化期以降も新梢が伸びる場合は、新梢の先端を摘心し伸長を抑える。
- ・果実の着色不良が懸念される場合は、着色程度を見ながら再摘房する。

#### 3 柿

- ・樹勢が強い場合は、6月上中旬のノコ目処理(生理落果防止)、6月中旬～7月上旬の環状はく皮処理(花芽確保)を実施する。

#### 4 梨

- ・黒星病の発生を防ぐため、6月上中旬に十分な薬量により薬剤防除を行う。
- ・6月下旬以降に新梢の誘引を行い、受光環境を改善し、次年産の花芽を確保する。

### ■花き

#### 1 共通事項

- ・かん水や施肥を控えめとし、軟弱徒長防止に努める。
- ・株元が繁茂する場合は、株の整理や下葉かき、整枝等を行い、受光環境を改善する。

#### 2 施設栽培

- ・キクの挿し穂は、冷蔵保存により計画的に採穂し、日照条件の回復(2～3日以上、晴天が連続)後に採穂する。
- ・ハウス内の換気に努め、遮光資材の細めな開閉により、曇雨天が続いた後の強光による芽や葉の焼け症を防止する。